

一関

2022年
(令和4年)
5月12日
木曜日



アメリカザリガニ



研究推進、地域活性化

一関高専とTOLIC 包括連携協定を締結



署名、押印した協定書を手にする荒木校長(右)と小山会長

一関工業高等専門学校(荒木信夫校長、一関市萩荘)と東北ライフサイエンス・インストルメンツ・クラスター(TOLIC、小山康文会長、盛岡市)は11日、教育・研究活動全般に係る包括連携協定を締結した。学生のインターシップ受け入れや共同研究を行う双方が、さらなる研究や新規事業立ち上げを通して人材育成と共同研究、学生の起業を推進し、若者の地元定着による地域活性化を進めていく。

【1面に関連】

同高専で行われた締結式には双方から6人が出席。代表として荒木校長と小山会長がそれぞれ署名、押印した協定書を取り交わした。協定における連携の主な内容は▽コンソーシアム研究(課題解決型、ハイリスク挑戦型など)の推進▽高専間連携などを行うプロジェクト研究や一関高専の卒業研究、専攻科特別研究の推進▽中、長期の起業家人材育成プログラム推進▽な

牽引できる人材を育て、盤に産学官金で構成されたライフサイエンスの集積拠点形成を目指す事業家連携組織で、現在は関連する参画企業33社を中心に構成。同高専とは2019年ごろから企業との間で共同研究などの取り組みが始まり、TOLICが開催したインターシップへの学生受け入れなどを経て企業との共同研究契約やさまざまな研究成果に結び付くなど、連携の動きが高まっている。

ど教育・研究活動全般にわたるもので、地域が抱える諸問題に対応。締結を受けからはTOLIC参加企業から高専と行う研究テーマ抽出などが進められる。あいさつで荒木校長は、日本が技術研究分野で世界に遅れを取っているとした上で「今後必要なのは課題解決による新しい形を創造すること。外部の協力を頂きながら若者を育て、岩手県でイノベーションを創造し